

平成 17 年 1 月 31 日

取材報告

気象衛星センター所長

新潮者の総合月刊誌 「新潮 45」誌上の「達人対談」というタイトルで、タレント北野武氏（通称ビートタケシ）との対談を行った。

日時： 平成 17 年 1 月 27 日 14 時—16 時

場所： 赤坂プリンスホテル

対談相手： 北野タケシ

新潮 45 編集長、中瀬ゆかり氏 新潮社 常務 石井 昂氏

オフィス北野社長 森昌行氏

まとめ 新潮 45 副編集長 吉澤氏

掲載予定： 平成 17 年 2 月号

対談内容： 気象、地球環境、地震など幅ひろい話題で対談。

衛星の打ち上げ日程は話題にのぼったが、それ以上の話題とはならなかった。

2 月はじめまでに、素原稿が作成される。内容の確認を行う。

以上

雑誌「新潮45」・ビートたけしとの「達人対談」の記事の件

2月18日（3月号）

気象衛星センター所長
村松 照男

発行された記事は、別紙のとおりです。

本対談は、新潮45編集部、吉澤編集長からの標記の対談依頼がありました。

気象一般で、わかりやすテーマを対談した意図のことで、広報室との相談の結果、お受けすることとなった。時節がら、衛星打ち上げや、温暖化など、微妙な問題を避けて、一般的なことのテーマということで、相互に了解に達し、対談となった。気象の啓蒙活動の一環としての、出前講座との位置づけで、講演料なし、外勤扱いとしました。

北陸豪雪と白頭山山系との関係のくだりで若干、言葉足らずの点があり、誤解を招く懸念がありそうです。すなわち、少ニュアンスが、違っていると思いますが、当方としては、別紙の気象衛星写真を見せて、「北陸豪雪と朝鮮半島の付け根の（長白山系）の白頭山の山脈」が、関係しているとの話となったものですが、読み方によっては少し穏当さを欠いていたと考えています。

中越地震の被災地が北陸豪雪となっており、連日大雪が降っていることの話題性として冬将軍との文脈で、話題としました。1月29日夕刊の日本経済新聞に書いた、「中越地震の被害地帯を襲う豪雪は、朝鮮半島の付け根の風下側の影響が強い」という宿命的な位置関係にあるとことを年頭においた話だったとおもいます。この話は学会誌の天気にも論文になっており、小職も別紙のように気象の専門書にもかいていました。全く、従来の延長線上に話であるだけです。

他だし、18日発売というタイミングが問題です。当初、発売日付近に、北朝鮮が核装備の宣言して世の中が騒然として、金正日総書記の生まれた日に近いなど、想定していませんでしたが、危機管理のあまさがあったかもしれません。

この件で何か、問い合わせがありましたら、この記事に基づき、衛星写真をもとに、私が、お話しします。2月24－25日は、打ち上げで種子島に出張します。

対談は、インターネットの利用とか、予報官の感性とか、かなり前向きな多々あったのですが、雑誌側の編集でかなり、カットと表現整理がされています。対談を受けた、校正のチャンスもありましたので修正を求めなかった、こちらの手落ちもあります。新潮常務、新潮45編集長も対談に参加、ビートたけしも独特な強い個性にと絡み合った記事といえます。

とりあえず、関係資料とあわせ報告します。

平成17年2月18日